

平成 30 年度 第 1 回常任委員会

期日：平成 30 年 7 月 31 日(火)

会場：知多市勤労文化会館研修室 1

出席者：釜井、諸江、安藤、根岸、渡部、中村、宮山、大槻、豊田、柳本、松本、渡邊、和田、伊勢、恒松、平、多田、村田

○挨拶 全国高体連専門釜井部長
愛知県高体連専門橋本部長
霧島市実行委員会森重課長（平成 31 年度全国高校総体開催予定）

○報告・協議事項（司会 根岸副部長）

1. 平成 30 年度全国高校総体について

- ・「全国大会に参加される監督の皆様へ」を郵送済
- ・「実行委員会からのお知らせ」はこの後の会議で配布。昨日より会場設営開始
- ・監督者数 186 名 → 196 名に訂正

2. 第 43 回全国選抜大会について

- ・抽選会 2 月（岡山）、第 2 回全国委員会実施（役員改正のため）

3. 平成 31 年度全国高校総体について

- ・資料の通り

4. 平成 31 年度以降大会について（安藤副部長）

- ・全国総体 31 鹿児島県霧島市、32 大分県大分市、33 福井県越前市、34 香川県(高松市で調整中)
- ・全国選抜 31 宮城県利府町、32 中ブロック(近畿で調整中)、33 西ブロック(九州で調整中)

5. 報告事項

- ・会議実施報告（和田）
- ・競技委員会報告（伊勢）
- ・全国高体連及び日本 F 協会報告（釜井）

6. 協議事項

(1) 決算報告（根岸）

- ・補助金・分担金収入増、旅費マイナス（他の使っていない項目から回している）、
- ・表彰物品が発生、約 300 万円を繰り越し、海外指導者研修会→「海外」取る

(2) 行事予定（和田）

- ・強化普及事業（恒松） 日程変更（12/7～9→12/14～16）、講師 村上幸生氏

(3) 収支予算書（根岸）

- ・収入は今年度同様、旅費を厚めに分配、雑支出を減らした、用具検査ボックス執行済、収支をゼロとした、繰越額は 2 月の段階よりも増やしてある

(4) 平成 29 年度第 2 回常任委員会継続審議事項（安藤）

1. 全国選抜大会について

参加申込と参加料振込を切り離せないか

→現状のやり方は変えないが、支払いが遅れる場合は新たに作る書式に校長印を添えて提出、組み合わせ抽選会の日程は動かさない。

2. 大分大会の進捗状況

- ・県と市の費用負担率が決まっていない

- ・日程・人件費・会議等で費用削減する方向で調整
- ・単年度での参加料値上げもあり得る
- ・「館内の室温」確保以外は規定を適用しない方向で調整

(5) 石川選抜総括（安藤）

- ・実施要項変更に関する事項は愛媛に申し送る。競技に関するものは競技委員会に提案。
- ・出場枠については、愛媛大会終了後、来年6月の競技委員会で検討
- ・病気・けが以外の選手変更は規定通り認めない。
- ・ゼッケンの安全ピン留めは不可とする（スナップ留めは可）→文言は今後考える
- ・競技会場内での裸になっての更衣は不可 →監督会議でお願いして徹底してもらう
- ・インターハイでの「出戻り」は認めて良いのでは→現状では認めない
- ・膝や足首の装具は「突起物」となるので中に入れる

(6) 競技委員会提案事項（伊勢）

- ・インジュリータイム変更→「医者が治療をする」と言ってから5分間
- ・肩の転移（剣を持たない側の手の扱い）
- ・サーブルグローブは適用
- ・罰則規定も変更
- ・広告についてはルールを遵守
- ・ビデオ撮影は「通信機能が付いたものでの録画は出来ない」と監督には通達済み
- ・全国選抜タイムテーブルは1案(種目でまとめて実施)
- ・個人対抗の3位決定戦は「実施しない」方向で全国高体連と調整中
- ・硬い胸部保護具は使用禁止だが専門部では年度途中の変更は出来ないと判断
硬い胸部保護具は女子必須、男子フルーレは任意だが日本協会の運用に順じてインターハイでは使用しない（今回は軟式のものも不可）。
- ・製造年月日の規定は高体連では従わない(剣は世界でも行われていない)、専門部としては業者と相談をして時期を検討

(7) 強化普及委員会提案事項（恒松）

- ・日程変更あり、倉敷体育館（予定、取れない場合は京都）

(8) 都道府県提案事項

- ・東北大会とランキングマッチが重なって東北大会を辞退してランキングマッチに出た
→日程を調整し配慮して実施して欲しい（釜井先生が協会の9/9の理事会で申し入れ予定）
- ・「準エリートアカデミー」の子の対応 → 線引きが難しいので従来通りの回答
- ・インターハイでのリレー制、エペ・サーブル団体戦実施は出来ないか
→日程・規模の拡大が出来ないので現行通り

(9) その他

- ・用具判定基準図解変更（村田）
- ・豪雨の募金を実施、募金箱を設置し最終日に預かって全国高体連に送る（根岸）
→ 被害の状況は全国委員会で呼びかけ、報告をしてもらう。
- ・戦績証明の照会は余裕をもって行って欲しい（豊田・川嶋事務局長）
→ お盆の時期に選手の保護者から3日で作るよう事務局に依頼があった
- ・高体連番号をもとに戻した。意外とスムーズには行っただが、いくつか間違いはあった。（和田）
（データを事務局から再送した県もあった）